

令和7年度 うらわ会「一日研修会」

～宇宙開発の未来と戦後80年から辿る平和への旅～

今回の研修では、「宇宙開発の未来と戦後80年から辿る平和への旅」と題し、茨城県の筑波研究学園都市、JAXA（宇宙航空研究開発機構）筑波宇宙センターと隣町、阿見町にある予科練平和記念館を訪れました。天候にも恵まれ、24名が参加。バスの中や昼食では、現役時代の懐かしい話に花が咲き、参加者全員からの感想発表からも、とても有意義な楽しい研修会となりました。

最初の訪問場所は、旧大宮市出身の宇宙飛行士、若田光一さんも勤務されていた、JAXA です。施設の機密性から、入場や見学に際しては厳重な管理がありましたが、ガイドさんの



わかりやすい説明で日本の宇宙開発への取組がよくわかりました。

普段、映像でしか見られない管制室の様子や ISS 国際宇宙ステーションの実験棟「きぼう」からの宇宙生映像に感激。また、宇宙飛行士選抜において、究極の大事な観点は「協調性」と伺って、学校や身近な社会でも、世界中また宇宙でも、普遍的なことに改めて納得しました。



立ち眩む猛暑の中、長さ約50mもあるHIIロケットの前で、記念の1枚をパチリ！

昭和100年に当たる本年は、戦後80年の節目の年。あの悲惨な戦争が現代に残したものは何だったのか。当時の国民の厳しい生活の中で、予科練に志願した昭和の少年たち。そして、南方の空に命が潰えていく特攻隊の若者たち……。次の世代に伝えていかなければならない戦火の歴史を写真やジオラマ、当時の貴重なフィルム他で見ることができました。昭和を代表する写真家、土門拳さんが撮影した42枚の予科練の写真には圧倒されました。

昭和14年から終戦まで、旧海軍航空隊の基地として、全国の予科練教育・訓練の中心となった阿見町。ここにできた平和祈念館では、平和と命の大切さについて、改めて深く考える機会となりました。

